5G総合実証試験に関する「5G国際シンポジウム2018」開催概要について

第5世代モバイル推進フォーラム事務局
一般社団法人電波産業会

1. はじめに

2020年に実現が期待されている第5世代移動通信システム（5G）について、5Gが実現する将来像や社会を俯瞰し、「5Gを見る、知る、分かる」をテーマに、総務省主催、第5世代モバイル推進フォーラム（5GMF）及び一般社団法人電波産業会（ARIB）共催、一般社団法人情報通信技術委員会（TTC）後援により、国際シンポジウム2018を開催した。本シンポジウムでは、総務省が2017年度から実施している「5G総合実証試験」の成果を広く周知するとともに、5Gが実現する世界を来場者に体感していただくために、会場内において総合実証試験に関する展示・デモを実施した。また、国内外からの有識者・専門家によるプレゼンテーション・パネルディスカッションを通じて、今後の本格的なIoT時代を迎えICT基盤としての5Gがもたらすインパクトについて共有し、さらにその実現を加速するための環境整備や課題等について議論した。

2日間で1,100人を越える参加者があり、盛況のうちに終えることができた。

本稿では、本シンポジウムの事務局を務めた5GMF事務局及びARIBが総務省及び参加した5GMF役職者の協力を得て、開催概要を報告する。

2. 開催日・場所

日程：2018年3月27日（火）～28日（水）
場所：東京お台場　国際交流館プラザ平成

■写真1. 5G国際シンポジウム2018の会場の様子

3. 開会式及び基調講演

開会にあたり、主催者を代表して総務省 坂井学副大臣の挨拶があり、続いて第5世代モバイル推進フォーラム 吉田進会長（京都大学 名誉教授）の基調講演が行われた。

坂井総務副大臣からは、世界各国の関係者と5Gの将来像、社会像を共有し、さらに密接なパートナーシップを組

■写真2. 総務副大臣 坂井　学氏

■写真3. 5GMF会長 京都大学 名誉教授 吉田　進氏

むことで、世界を席巻するような新たな製品・サービスを生み出すことができれば、主催者として幸甚ですとのご挨拶があった。

吉田会長からは、今回のシンポジウムは5Gの2020の実現に向けて、「5Gを見る・知る・分かる」のテーマに沿ったプログラムの構成となっており、講演や会場内の展示を通じて5Gのインパクトを感じるとともに、5G実現後の将来像・ライフスタイル・ビジネスの在り方を考える場として楽しんでもらいたいとの講演が行われた。

4. セッション概要

4.1　第1部：5Gで何ができるのか？ ―5G総合実証試験の成果―

5GMF技術委員長の三瓶政一氏（大阪大学教授）が進行役を務めた。

（1）プレゼンテーション（第1グループ）

（株）NTTドコモ：

「人口密集都市環境における5G超高速通信実証試験 ―エンターテインメント／スマートシティ／医療応用分野―」

NTTコミュニケーションズ（株）：

ルーラル環境における高速移動時の5G高速通信実証試験 ―エンターテインメント応用分野―

（2）プレゼンテーション（第2グループ）

KDDI（株）：5Gの超低遅延を活用した実証試験 ―建設機械遠隔操縦、コネクティッドカー、ドローンからの高精細映像伝送―

（株）国際電気通信基礎技術研究所（ATR）：

5Gの超高速を活用した屋内環境での実証試験 ―スタジアムエンターテインメント、駅構内の安心安全の向上、学校のICT教育―

（3）プレゼンテーション（第3グループ）

ソフトバンク（株）：自動運転を支援する5G超低遅延通信実証試験 ―トラック隊列走行への適用―

（国研）情報通信研究機構（NICT）：5Gの超多数同時接続を活用した実証試験 ―災害避難所とスマートオフィスへの適用―

（4）総括

三瓶委員長から、「第4世代（4G）までとの違いを実感していただいたと思う。情報配信ではなく情報交換のフェーズに入っている。特に遅延に関しては、人がどのように感じるかという視点だったが、IoTという場面になると1m秒の遅延も問題となる。そのため、キャリアのみでなく、ユーザーと一緒になった実証実験が行われた。バーティカルセクタのIoTの実装に向けて、2018年度は重要な年度となる。2020年度のサービスインに向け、参加いただいた方々と共に取組みを進めたい。」との総括が行われた。

4.2　スペシャルイベント ―5Gへの期待―

5GMF企画委員長の森川博之氏（東京大学教授）が進行役を務めた。

（1）招待講演

（株）セブン銀行　松橋正明業務執行役員より、セブンラボの取組みや5Gへの期待等について講演が行われた。

講演では、業界の変化把握も重要だが、お客様の価値の変化対応が最重要。例えば、現金受取サービスは銀行のレギュレーションの中で考えていても出てこないサービスである。また、ATMを中心としたフル・リモートオペレーション、電子突合による現金運用の革新を世界初のIoT技術で実現・提供してきたと強調された。

（2）特別対談

森川博之5GMF企画委員長がモデレータを務め、登壇者として島田啓一郎氏（ソニー）、谷田泰幸氏（JVCケンウッド）、藤岡雅宣氏（エリクソン・ジャパン）、松本端午氏（富士通）を招き、特別対談を実施した。

対談では、「5Gに対する期待は何か」、「5Gに対応したビジネスとしてどのようなものを考えているか」、「5G時代に求められる人材・組織とはどのようなものか」、「5Gへの各社の具体的な対応はどのようなものか」等について、製造事業者、経営者、消費者等の多角的な視点から、新規事業への進出、人材の発掘・育成、社内組織の在

り方、今後の5Gビジネス展開への期待等の幅広い議論が行われた。

4.3　第2部：5Gで生活や仕事の何が変わるのか？ ―5Gによる社会変革―

5GMFアプリケーション委員長の岩浪剛太氏（インフォシティ代表取締役）が進行役を務めた。

（1）講演

aba（株）宇井吉美代表取締役より、同社の取組みや方向性、5Gへの期待等について講演が行われた。

講演では、介護職の離職率の高さや家族介護者の現状といった「介護者の負担」という課題があり、abaでは、この現状に対して誰もが専門的な「介護脳」を持って介護ができるよう、排泄センサ等のサービス・アプリケーションを提供しているとの説明があり、介護業界がテクノロジーに期待する3つの未来について説明された。

（2）パネルディスカッション

岩浪アプリケーション委員長がモデレータを務め、パネラーに岩佐琢磨氏（Cerevo）、宇井吉美氏（aba）、長瀬慶重氏（サイバーエージェント）を迎えた。

「10年後にどのように世の中が変わるか？」、「これまでの10年間でのスマートフォンによるインパクトは？」、「ネットワーク・スマートフォンの普及によってどのような変化を感じているか？」、「5Gの今後に期待することは？」等について、活発な議論があり、今後生活に根付いた5Gによるイノベーションの展望について、示唆に富んだ意見の交換が行われた。

（3）総括

岩浪委員長から「この10年で誰もがネットワークにつながり、通信をしている時代となっており、どのような事業者もそれを意識する必要がある。5Gであらゆるものがつながれば、人間が拡張される時代が実現する。あらゆる産業から5Gの利活用を考えてアプローチしてもらいたい。」との総括があった。

4.4　第3部：日本経済新聞の関口和一編集委員が司会を務め、2つのセッションが行われた。

（1）セッション1：5Gをどう実現するのか？
―5G実現に向けたクロスオーバコラボレーション―

石山洸氏（（株）エクサウィザーズ 代表取締役社長）、富田直美氏（（株）hapi-robo st 代表取締役社長）によるショートプレゼンテーションに続いて、3者による対談を行った。

対談では、「5Gにどのようなことを期待しているか」、「5Gを活用したアプリケーション」、「4Gから5Gへの変更によるビジネスの在り方」、「5Gを利活用する上での日本の仕組み・規制の課題」、「5Gによる日本の産業革命・企業の在り方の変化」、「日本の教育の在り方」、「2020年のオリンピック・パラリンピックでの5Gの利活用」等の幅広い観点からの議論が行われた。

（2）セッション2：5G利活用国際連携

欧州、アジア諸国から、8名の登壇者を迎え、以下のメンバーでセッションを実施した。

①台湾ICT産業標準協会技術委員会　副委員長　Pang-An Ting氏
②トルコ共和国・情報通信技術庁5GTR　フォーラム所長　Ramazan Yilmaz氏
③インドネシア5Gフォーラム　無線技術ワーキンググループ　委員長　Khoirul Anwar氏
④タイ国家放送通信委員会 無線管理局 事務局長　Saneh Saiwong氏
⑤パリ国立高等電気通信学校名誉教授　Gérard Pogorel氏
⑥フランス規制機関ARCEP委員、フランス国立科学研究センター研究部長、エコール・ポリテクニーク教授　Pierre-Jean Benghozi氏
⑦国際通信学会前会長、スウェーデン チャルマース工科大学教授　Erik Bohlin氏
⑧ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス客員教授　Martin Cave氏

セッションでは、まず「各国の5G関連の取組みの紹介」について、インドネシア、タイ、台湾、トルコからの発表が

■写真4.　セッションの様子

あった。

続いて、「5Gの全体像をどのようにとらえているか」、「各国での最大の課題と解決案」、「5Gの時代の日本はどうなるか、また、日本に何を期待するか」について、電波を含めた公正な利活用の促進が必要、5G導入における料金や競争政策等の課題の指摘があり、日本への期待が示された。

5. 閉会式

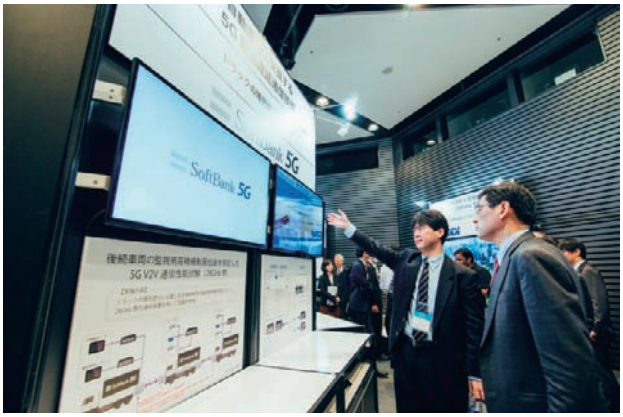
閉会にあたり、ARIB松井専務理事より、「アジア及び欧州からの登壇者を迎え、5Gに関する有意義な情報・意見交換ができた。4Gまでは通信インフラであったが、5Gは社会インフラとして様々な産業の利活用が考えられ、これら産業との連携が重要であるとともに、国の役割が大きい。引き続き、関係者のご協力をお願いする」との挨拶が行われた。

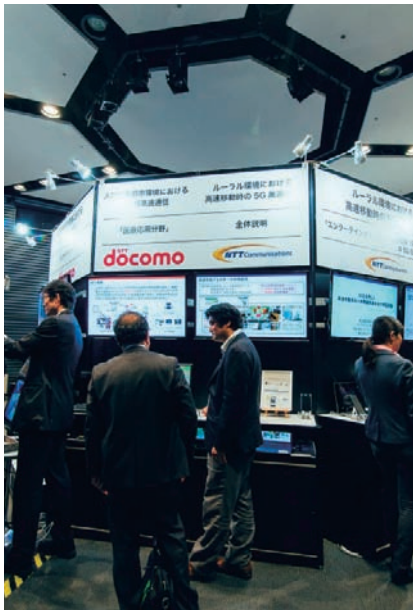
6. 5G総合実証試験の展示・デモ概要

シンポジウム会場に隣接した展示会場に5G総合実証試験の展示ブースを設置し、試験用機材の展示や電波を発射した動的展示もあり、多数の来訪者を迎え、熱心に質問する姿が多く見られた。

7. おわりに

2日間にわたり、30名以上の登壇者を迎え、総務省による「5G総合実証試験」の成果や展示を踏まえながら、第1部から第3部に特別対談を加えたセッションにおいて、「5Gを見る、知る、分かる」を訴求した。登壇者の皆様には、改めて御礼申し上げるとともに、5G実現後に再び集まり語り合っていただきたくなる中身の濃いシンポジウムとなった。引き続き5G早期実現に向け、ご支援とご協力をお願いいたします。





■写真5. 展示会場の様子